



甲斐 憲俊さん  
Kai Noritoshi

(緑町区)

かい のりとし / 95歳、弓道家。主に60歳以上が参加する第30回全国健康福祉祭あきた大会(ねんりんピックあきた)に出場し最高齢者賞受賞。

## 積年鍛錬した心身で 引き続き生きるがいの弓

自宅に開設した弓道場の澄み切った空気の中、矢を放つ弦音に続き、的を矢が射る音が響き渡る。弓を引くのは甲斐憲俊さん(緑町区)、95歳。昨年9月に秋田県で開催された「ねんりんピック」

に、弓道の県代表として初出場。最高齢者賞を受賞した長寿にあやかるうと、多くの人から記念写真を求められた。「アイドルよりも、たくさん撮られた」と笑みがこぼれる。弓道は中学生のころ少した

しなみ、30歳を過ぎて知り合いに和弓をもらったことから再開。「ずっと弓道をやりたかった」という思いが募り、定年後に退職金で弓を買って弓道場も建設し、本格的に弓道に取り組む。各地の弓道場を回り、甲佐高校での指導にも約20年間あった。現在も郡代表で県民体育祭に出場するなど、第一線で活躍。毎週のように開催される大会に出

掛けるため、スケジュールがぎっしり詰まっている。

弓道では、28歳先にある直径36センチの的を狙う。「弓を引く際に、肩甲骨や背筋が伸びて気持ちいい」と、冬でも暖かい日は10本程度の弓を引く。「矢を放った瞬間がいい。弓道場では、中学生から高齢者までが1列に整然と並び、世代を越えて楽しめる」と、弓道の魅力を話す。真剣な眼差しで弓を引き快音を響かせ、「当たると気持ちいいよ」とにっこり。「しばらく引かないと当たらなくなる」と危惧し、日々鍛錬を積み重ねた。

歩くことが好きで、毎朝1時間ほど散歩する。「雨が続く」と、週2回、町総合保健福祉センター内のフィットネスセンターに通う。洗濯などの家事もこなし、趣味は幅広く、月2回は仲間と謡曲を楽しむことも。「元氣だから、好きなことを続けていられる」と話す甲斐さん。弓道場には、長年にわたる研磨の証として、数々の賞状やトロフィーがずらりと並び輝く。

## 広報 こうさ

2018年(平成30年) 1月号  
通巻582号